

## 2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

城東中学校区

校番 5

福山市立城東中学校

最終更新日

2021年(令和3年)4月1日

## I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 中学校区で統一した育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)のもと、9年間を見据え児童・生徒の思考や単元の意義を協議し、子どもの学ぶ姿から授業を構成する。	児童生徒の現状 自分の考えをまとめ、他者と協働し、課題を解決しようとする力が育ちつつある。 自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	スキル ○課題を見つけ、解決の道筋を見いだす力 ○根拠をもって相手を説得する力 ○自他を認め合い思いやる態度 ○自らの行動を律し、高まろうとする態度 〈課題発見・解決力〉 〈論理的思考力・表現力〉 〈協働性〉 〈自己指導力〉 目標を定める子 ねばり強く学ぶ子 自らを律し行動する子 校区スタンダードで目指す児童・生徒の姿(達成基準)を系統的に4つのステージで捉え、校区で統一した取組を進め、共通の指標で評価していく。 自ら考え学ぶ授業改善の実現に向けて、校区全体で児童・生徒に育むスキルと倫理観を明確にする。系統的指導のあり方を協議の柱として、校区授業研究を活性化する。
--	--	---	--

## III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	論理的思考力 ・表現力	協働性	自己指導力	
主体的な学びを通し、自立し、自己と郷土の豊かな将来を創造する生徒を育てる。							
学校教育目標		めざす子ども像	1年生	課題を見つけ、見通しを持って仲間と共に解決しようとしている。	自分の意見と相手の意見を比べながら聞き、根拠を明らかにして自分の考えを、説明することができる。	相手意識を持ち、積極的に人間関係築こうとしている。	様々な活動に進んで挑戦し、責任を持ってやりとげようとしている。
自立・貢献							
現 状		研究	テーマ	個に応じた多様な学びの創造			
＜生徒＞ 一人一人の違いを認め、多様な他者と協働して物事に取組もうとする生徒が増えてきている。また、自分に合った学び方を考えよとする生徒が増えてきている。							
＜授業＞ 生徒主体の授業づくりを意識して行うことで、自ら課題を発見しグループで解決しようとする姿が増えてきている。 生徒だけで思考が深められないときの支援方法、知識・技の定着における伴走方法について課題がある。		めざす授業の姿					
						○ 自らの興味・関心にもとづいた探究的な学びの展開 ○ 自らの特性を理解し、自分に合った学び方を選択できる授業	

## Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城東中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ 評価	達成 評価	総合 評価
5	自ら考え学ぶ 授業づくりの 推進	★	継 続	ICTを活用し、 自分に合った 学び方を選択 できる授業づ くり	・課題発見・解決学 習による「主体的 な学び」づくり  ・学び合いによる対 話のある授業づ くり	・授業で考えること が面白い生徒 85%以上  ・標準学力調査 全校平均以上								
2	自己有用感を 育くむ居場所 づくりの推進		継 続	多様な考えを 認め合う集団 づくり	・探究的な授業、行 事、部活動等を通 じた協働的な集団 づくり  ・ふれあいルーム、 CRを活用した個 の特性に寄り添っ た支援・伴走	・自分の考えは認め られている生徒 85%以上  ・長期欠席者 3.5%以内								
6	保護者・地域に 信頼される学 校づくりの推 進		継 続	SDGs 設定に よる学校づく り	・生徒会・委員会活 動と連携して、校 内ボランティア活 動を仕組む  ・ICT を活用した業 務改善を図る	・ボランティア活動 を年1回以上行っ ている生徒 90%以上  ・仕事にやりがいを 感じている教職員 95%以上								

## [プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

## [達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

## [総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。